

天敵殺虫剤

チリガブリ[®]

®は登録商標



ミヤコバンカーリー[®]との
併用を推奨します!



(2,000頭/30ml)



石原バイオサイエンス株式会社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番2号

チリガブリ[®]

【天敵殺虫剤チリガブリの特長】

チリガブリは、ハダニ類(ナミハダニ、カンザワハダニ等)を捕食する天敵“チリカブリダニ”を含有する製剤です。

ハダニ類のみを主なエサとし、他のカブリダニ類と比べて高い捕食能力と増殖能力を持ち合わせています。



適用害虫と使用方法

作物名	適用害虫名	10アール当りの使用量	使用時期	使用方法	本剤およびチリカブリダニを含む農薬の総使用回数
野菜類(施設栽培) 花き類・観葉植物(施設栽培)	ハダニ類	2,000~6,000頭	発生初期	放飼	—

放飼方法



①使用前に容器の底を下方に向く軽く打ち付けてチリカブリダニを下に落とします。

②容器を横にして5~6回程度、ゆっくりと回転させます。

③緑色のキャップを外し、散布用キャップに付け替えます。

④少量ずつ圃場全体に放飼します。ハダニの密度が高い場所に重点的に放飼します。

⑤容器内にチリカブリダニが残っています。放飼直後は、容器をそのまま株間に数日おきます。

※10アール当り1~3ボトルを使用してください。1ボトル当り約200回振ると、全頭放飼されます。

上手な使い方

- ハダニ類の発生初期に放飼してください。
- ハダニ類の発生している箇所へ多めに放飼すると、より効果的です。
- 放飼前日までに、気門封鎖剤を散布し、ハダニの密度を下げておくと防除効果が高まります。ただし、ハダニの密度が高い場合は、カブリダニ類に影響の少ない化学農薬を散布し、大幅にハダニの密度を下げてから放飼してください。

効果を発揮!

放飼3~4週間後頃にハダニ類の減少とチリカブリダニの増加が観察されます。これらの様子が観察され、ハダニ被害が拡大する勢いが抑えられたり、新葉が展開してきたら、チリカブリダニは順調に定着しているものと考えられます。

〈注意事項〉 ●チリカブリダニ導入後は、チリカブリダニに影響のある農薬は使用しないでください。
●商品が到着後、速やかにご使用ください。やむを得ず保管する場合は冷暗所で保管し、必ず使用期限内(最終有効年月まで)に使い切ってください。

おすすめ!

【イチゴ本園でのミヤコバンカー[®]との併用】

バンカーシート[®]とは、化学農薬や環境変化の影響を軽減し、シート内でカブリダニを生存維持し、長期間放出できる簡易型紙資材です(右写真)。

※ミヤコバンカーは、バンカーシートとミヤコカブリダニパック製剤をセットとした商品の通称です。

イチゴ定植後、マルチを展張したのち(10月中旬~11月上旬)にミヤコバンカーを設置、同時にチリガブリを放飼することで、より安定したハダニ防除効果を発揮します!



バンカーシート[®]は農研機構・中央農研を中心とした農食事業(実用開発ステージ26070C)で実用化技術を確立しました。

生物農薬の詳しい説明はこちらからご覧いただけます。

石原バイオサイエンス株式会社~生物農薬特設ページ~
<https://ibj.iskweb.co.jp/biopesticide/>



- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

本印刷物は2022年7月時点での知見に基づいて作成しています。



JAグループ

農
協

全農

経済連



石原産業株式会社